

## 分科会開催にあたり委員から寄せられた治水に関する質問等

### 1. 意味がわかりにくい専門用語等

- ・ 流出解析 確率降雨 計画降雨
- ・ 外水 内水 外水氾濫 内水氾濫 堤外地 堤内地
- ・ 越水 溢水 基本高水 計画高水
- ・ 頭首工 樋門 水門 閘門 遊水地 調節池
- ・ 洪水氾濫危険区域図、浸水想定区域図及び洪水ハザードマップの違い
- ・ 汽水城
- ・ 基本方針と整備計画の違い（整備計画でどこまで具体的な内容を記載するのか）

### 2. 河川整備計画の整備目標

- ・ 揖保川の河川整備基本方針に関する情報が極めて乏しく、河川整備基本方針の策定状況に関する具体的な情報が未だにほとんど流域委員会には提示されていない。河川整備基本方針が先に議論され、その方針を踏まえて、河川整備計画が議論されるか、あるいは、河川整備基本方針と河川整備計画が同時に議論されるのが普通ではないかと想像するが、揖保川流域委員会では、河川整備基本方針と河川整備計画とは、事実上切り離した議論となっているように思われる。そこで、分科会には、河川整備基本方針に関わる資料（素案等、現時点で提示可能な資料）をご提出いただきたい。
- ・ 河川改修を下流から順に実施する原則の背景とはなにか。
- ・ 河川管理者が流域全体（森林、農地、市街地等）を管理できない理由ななにか。また、諸外国ではいかがか。
- ・ 県管理区間との調整・すりあわせが議論の俎上に乗らないのはなぜか。
- ・ なぜ 47 年かという、400 億円という予算の枠内での治水計画としてはこれが一番上・中・下流全域のバランスよくベストの案であるとの説明は理解できるが、「予算」があって「計画」が作られるは気になる。例えば上（中・下）流にこれだけの集中豪雨があると仮定しても、S47 案ではこれだけの安全性が保たれるというようなことでもあれば説得力もあると思う。最近の気象は予想外のことが多く、少なくとも今後 30 年先に起こりうるであろうことも予想できることはその対策も考慮した上での S47 案であってほしい。
- ・ 引原ダムが決壊したときの増水を想定した整備計画を耳にするが、それに相応しない川幅の縮小や河川敷内に構造物が建っている。平素の水量が減少しているので、突発事の準備が大切である。

### 3. 氾濫被害とその対策

- ・ 未改修区間で、整備目標を上回る出水により被害が生じた場合でも、その後の改修では、当初の整備計画に沿った改修が行われるのか。
- ・ 第13回委員会会議資料『揖保川河川整備計画（治水）の基本的な考え方』中の「氾濫シミュレーションと実際の被害について」の項目で、内水被害の問題が除外されているように見受けられる。氾濫シミュレーション結果と実際の被害は必ずしも一致するものではないということに、どうしても引っかかるものがある。実際のところ揖保川水系において、この氾濫シミュレーションを行うに当たり、内水被害を除外し、外水被害のみで想定することに問題は無いのかなど、もう少しその辺りの説明がほしい。
- ・ 内水の問題は論点とならないのであろうか。もちろん管轄外の堤内地に関わる事項が多いのかもしれないし、直轄管理区間外の本川・支川等々に関わる部分も少なくないからだとは思いますが。ちなみに内水の件に関しては、揖保川流域委員会提言（平成16年3月）のIV.（4）2）ないし（5）等にも指摘がなされており、また、平成14年12月の第1回流域社会分科会の資料4「揖保川の課題」第1章 治水に見る課題 「6. 内水排除対策」等にも触れられている。
- ・ 昭和47年7月という対象洪水に基づき新規に治水対策に着手し、なおかつ継続事業、堤防質的対策等を引き続ききっちりやることをも前提とした場合、現在公表されている浸水想定区域図、ないし関係市町洪水ハザードマップ等の変更・改訂の可能性もあるのではないかと。流域密着の水防災などに関わる事項だけに、その辺りの展望をうかがいたい。
- ・ 氾濫許容の場合、被災に対する国の支援はあるのか。
- ・ 内水に関する国と自治体との協力体制はあるのか。（できない場合はその理由ななぜか。）
- ・ 揖保川流域に関わる国、県、市、町、組合や農林水産、都市、道路など各部局間の緊密な連絡、協力体制の必要性は、これまでに色々な視点から提言されてきた。この流域の管理の一貫性を目指すため、もう少し課題を明らかにしたい。例えば流域の約8割が山間部である揖保川の渓谷の両岸を広葉樹林帯にする等の提言はできないだろうか。又、この委員会が源流域に足を踏み入れ現状を知ること大切ではないだろうか。

## 4. 揖保川の特性について

- ・ 首都圏や関西都市圏を流れる一級河川との比較として、地下調整池や地下河川などの都市河川対策が、揖保川の治水計画になじまない理由はなにか。
- ・ 千種川、市川など近隣二級河川との共通点・相違点はなにか。なぜ揖保川が一級河川となったのか。

## 5. 地域のまちづくり・開発との関連性

- ・ 新聞報道によると、国土交通省は想定以上の集中豪雨などで川が氾濫した場合の被害を最小限に抑えるため、治水面だけでなく、まちづくりや住宅行政などと連携した総合的な水害対策を考える検討会を設置することを決めた模様である。現時点ではあくまで想像の域を出ないことでもあり、また、この揖保川の特性や流域の地域性に一概に合わないこともあろうかと思うが、その結果によっては、委員会の議論にもある程度の影響を及ぼしてくることとなるのではなかろうか。
- ・ まちづくりや開発が、河川環境や流域特性を変貌させるにも関わらず、なぜ河川整備計画においてはそのような議論ができない・また反映されないのか。都市河川では流域対応による総合治水対策が進められているのに揖保川では何故市街地や森林での事業が「河川管理者の及ばぬ範囲」となるのか。
- ・ 氾濫の可能性があるところに、なぜ市街地が広まったのか。また現在も流域内では開発が進んでいるのか。
- ・ 流域自治体の都市計画、流域住民の地域づくり活動と河川整備の具体的な計画の協働・連携の方針・方法について知りたい。
- ・ 地域住民が地域の河川整備について検討段階から参画する方法はあるのか。
- ・ 山・川・海を一体として考えた整備の実現性について知りたい。

## 6. 他河川の状況

- ・ 他の流域において制定された河川整備計画の治水関連部分を参照したい。これまでの委員会ないし分科会では、表「他河川の整備目標規模」、多摩川水系河川整備計画【直轄管理区間編】、多摩川水系河川整備基本方針の冊子が委員に配布されているが、この種の資料を追加していただきたい。
- ・ 揖保川流域の東側に大津茂川と古川があるが、下流域では洪水の時には大きな関係がある。揖保川流域の内水が大津茂川で合流して海に流されており、下流域の家屋浸水に大きな影響があるので、揖保川流域として一体化した考え方をお願いしたい。
- ・ 住民と協働で河川の整備・保全を行っている好事例を紹介してほしい。

## 7. その他

- ・ 揖保川の河川整備基本方針に関する情報が極めて乏しく、河川整備基本方針の策定状況に関する具体的な情報が未だにほとんど流域委員会には提示されていない。河川整備基本方針が先に議論され、その方針を踏まえて、河川整備計画が議論されるのが普通ではないかと想像するが、揖保川流域委員会では、河川整備基本方針と河川整備計画とは、事実上切り離れた議論となっているように思われる。そこで、分科会には、河川整備基本方針に関わる資料（素案等、現時点で提示可能な資料）をご提出いただきたい。
- ・ 他の流域において制定された河川整備計画の治水関連部分を参照したい。これまでの委員会ないし分科会では、表「他河川の整備目標規模」、多摩川水系河川整備計画【直轄管理区間編】、多摩川水系河川整備基本方針の冊子が委員に配布されているが、この種の資料を追加していただきたい。
- ・ 最近改訂された国土交通省河川砂防技術基準 同解説 計画編（平成17年11月）の「第2章 河川計画」を参考資料として、委員に配布することはできないか。
- ・ 今まで何回かの委員会において治水についてシュミレーションによる氾濫箇所・規模等を勉強してきたが、最近各地でおこっている集中豪雨は時間雨量何十ミリまた百ミリ超の降雨量など、観測網の整備された関係かもわからないが、昔より雨量が多くなっているような気がする。このような気象条件も委員会として議論してはどうか。
- ・ 網干大橋から西岸の下流に向けて引堤が完成しつつあるが、東岸の堤防を拡幅する要望が地元の住民から出されて10年以上になる。その後の計画案はどうなっているのか。
- ・ 網干区の本町橋の架設工事は、いつ頃計画されているのか。

- ・ 臨海大橋の少し上手の堤防が低いと思われ、台風の時、上げ潮と上流からの洪水により、異常に高い水位となり堤防から溢れそうになったために土嚢を積んで事無きを得たが、この個所の対策の対策はどうなっているのか。
- ・ 下流域では、上・中流域での溢水や降雨量が河川に合流されずに内水となって市街地に押し寄せる。そういう状況は台風や豪雨等異常気象下のことが多く考えられる。そのとき海の満潮や高波により河口から海水が逆に遡上している。昭和51年の水害で、網干で多くの床上下の浸水があり、その時に内水を排水するポンプ場所が確保されたが、早く排水ポンプを設備していただきたい。
- ・ 低気圧時の海水位の上昇と高潮及び満潮等の同時来襲について
  - (1) 河口より海水の逆流
  - (2) 上流よりダム放流の増水
  - (3) 幡洞川の内水処理機能
  - (4) 大津茂川（支流宮内川、古川等を含む）の内水処理機能
  - (5) 浜田、興浜、北新在家の内水処理
- ・ 中流地域の住民は下流に比べて河川敷の整備が遅れているという不満を多く持っており、「下流ではきれいに整備され公園化されているのに・・・」という声がよく聞かれる。こういったこともこの400億円の工事の中に含まれているのか。
- ・ 三川分派地区では上河原地区で工業用水の取水以来、流量の減少が影響して浜田井堰まで海水が遡上し地下水の塩分が多くなっている。揖保川の用水を受けた所は繁栄し、取水された側は洗浄水も得られないので取水量の見直しを考慮されたい。
- ・ 揖保川の流水も伏流水も地域の愛用した資源として活用してきた歴史がある。しかし、近年には商工業の発達から揖保川流域以外に送水される現状がある。農業用水の水利権も消滅の一方であるが、井戸水等の地下水の水質も悪化しており流域内の恩恵保全について考慮されたい。
- ・ 引堤、掘削等の工事現場での文化財への対応はどうか（どうあるべきか）特に埋蔵文化財の対応は過去に無いのだろうか。
- ・ 流域社会・住民の多様な意見の集約の方法として、懇談会形式の会はどうだろうか。
- ・ 淀川流域委員会や武庫川流域委員会のように議論がまとまらない場合、まとまるまで議論を続けなければならないのか。

以上